

策定年月	令5年4月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆国産化プラン

産地名：福知山市

（作成主体：福知山市地域農業再生協議会）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

1 小麦生産の現状

- ・主にパンや中華麺用として、品種「せときらら」を栽培し、ほぼ全量が府内の製粉会社に販売されているが、需要が供給を上回る状況が続いており、増産を図るため、作付面積が拡大している。
- ・年次変動はあるものの、反収が低い。

	R1	R2	R3	R4
面積(ha)	67	65	69	76
単収(kg/10a)	190	202	165	154
生産量(t)	127	131	114	117

2 課題

反収が低いという課題があり、その要因は下記のとおりである。

- ・播種時期の天候不良(うらにし気候)に伴う作業遅延
- ・肥料ムラ、播種ムラに伴う生育不良
- ・労力不足により適期防除、適期追肥ができないことに伴う雑草繁茂や赤かび病の発生、タンパク含有率低下(11.95%)

課題解決に向けた解決策は下記のとおり

- ・トラクターによる効率的な緑肥および雑草の刈り取りにより圃場準備を省力化
- ・散布機による肥料の均一施用と精密播種機による生育不良の改善
- ・乗用管理防除機による短時間広範囲の防除、適期防除、適正追肥

3 課題解決に向けた取組方針

- ・適期作業および省力化に向けて生産機械を導入し、反収・品質(タンパク質含有率12%)を確保しながら適期に作業できる範囲を拡大することで、更なる作付面積の拡大を図る。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

1 産地と実需者との連携方針

- ・実需者の要望する数量や品質を生産者団体を通して産地が把握することで、需要に応じた生産を図る。
- ・定期的に産地と実需者との意見交換を実施することで、情勢の変化にも柔軟に対応する。

2 国産小麦の取扱量の現状と目標値

● 産地:福知山市 品種:せときらら

(t)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8
産地	114	117	160	160	160	160
前田営農組合	6	6	8	15	15	15
市寺営農組合	2	0.3	3	5	5	5

● 実需者:井澤製粉株式会社

(t)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8
産地	114	117	160	160	160	160
前田営農組合 (井澤製粉株式会社 へ全量出荷)	6	6	8	15	15	15
市寺営農組合 (井澤製粉株式会社 へ全量出荷)	2	0.3	3	5	5	5

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

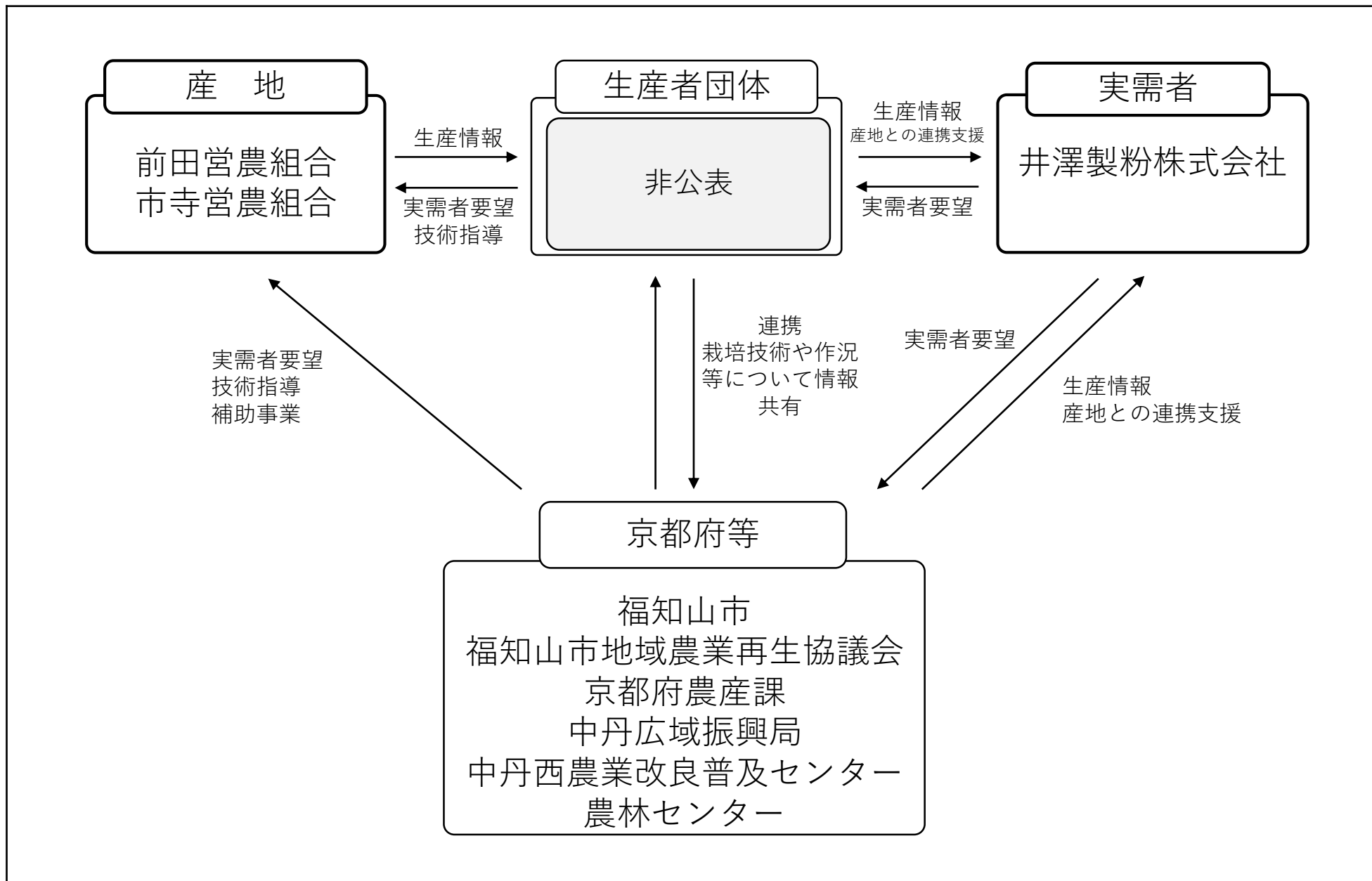
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。